

## 石屋のイロハ(5)

鏡の様な光沢を放っている石を見たお客様から「この石、何か塗っているのですか？」と尋ねられる事があります。そこで今回は石の磨きについて、少しお話ししたいと思います。

「石を磨く」と言う仕上げは大きく別けて、一般に荒磨き・水磨き・本磨きに区別されます。

まだ機械の無い頃、今から60年以上前、先号の石屋のイロハで紹介致した様に、原石を8枚ビシャンまでの工程を行って、その後手加工の道具の跡が無くなるまで、目の荒い砥石でスリ下(おろ)します。この作業は多くの時間と体力が必要です。現在では、原石を切断・切削機で石をカットした状態がほぼ、それと同じ仕上げになります。

荒磨きは、切断・切削の跡を目の荒い荒番の砥石でスリ下した状態の事を言います。石の結晶(石目)が見えて来ます。(石材用の砥石には人造ダイヤの目の粗い順に、80番(100番)、200番、400番、500番、800番、1000番、2000番、3000番、バフの9種類があり、その内、荒番が80番、(100番)となります。)

水磨きは荒磨き80番で平になった面(つら)を200番、500番、時には800番まで砥石を使用した磨きを言います。この状態ではまだツヤは出ませんが、石の色・滑らかな肌ざわり、もちろん結晶も良くわかり、水磨きは本磨きと違った味わいを感じられます。石の特長の豪華さの中に落ち着きも感じる事が出来ます。朱鷺メッセの壁の一部に貼られている大理石が水磨き仕上げです。

本磨きは、水磨きの後1000番、2000番、3000番、最後にバフで、その石の最高の光沢を出します。石によっては鏡のごとく見える事でしょう。

どの工程も大事。前の工程の砥石で付いたスジを次の番数の砥石でスリ下す。そして次の工程に進みます。いろんな石がありますが、磨きはその石の最高の光を出すべく作業を行います。石を磨くという事は昔はもちろん現代でも、多くの時間と、根気と熟練した経験が必要なのです。

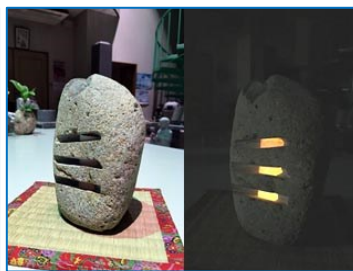
最後になりますが、鏡の様な光沢を放っている石には、何も塗っておりません。現代の人造ダイヤを用いた砥石で磨き出した物です。また次に紹介させていただきます。 【齋藤繁樹】

## 暮らしに石を(5)



### 一輪挿し

下部を平らにした天然石の上部に穴を開ける加工をします。ガラスや陶器とは違う、天然石と活けたお花との調和が楽しめます。花瓶とは違って水が無くなりやすいので、1日1回程度に水を入れてください。



### ミニ天然石燈籠

下部を平らにした天然石の下部から穴を開け、窓部分の切り込みを入れる加工をします。穴の中には和紙を貼って小さな電球を入れているので、ぼんやりと灯る独特の燈籠が出来上がります。ぜひ間接照明などにどうぞ。

小さな天然石の玉石を使って作る「一輪挿し」と「ミニ天然石燈籠」をご紹介します。この2つは2ページで告知しております夏休みイベント「石屋で遊ぼう！石屋で学ぼう！」にて工作体験をしてお持ち帰りいただけます。自分で石を選び、どこを上にするのかを考えるとところから楽しめますし、完成した物は世界に一つだけの作品となります。どちらも玄関やテーブルの上に飾るなどしていただくと、天然石が持つ独特の存在感が皆様のいつもの暮らしに新しい風を呼び込んでくれると思います。

### 編集後記

今号もお読みいただきありがとうございました。先日妻と二人の子供たちと花火をしました。花火で大はしゃぎする子供たちを見て、はしゃいで花火でやけどしたりした小さな子供だった頃の自分を思い出して懐かしくなりました。年齢だけは立派なオジサンになったんだなあ…。しみじみ感じました。ではまた。 【齋藤 勇介】

このニュースレターに関するお問い合わせ・ご意見・ご要望はこちらまでお願いします。

お届け先の変更や、ニュースレター送付不要の際もお知らせいただければ幸いです。(担当: 齋藤 勇介)

(有) 齋藤石材店

〒950-3321 新潟市北区葛塚4804 Tel:025-386-3491 Fax:025-386-3493

E-mail:saitougs@beach.ocn.ne.jp ホームページ:http://www.saitougs.com/